

「今後の災害を見据えた医療と医療関連サービス」 ～医療と医療関連サービスの継続～

2026年2月20日
公益社団法人 日本医師会

常任理事 細川秀一

発表者のCOI開示：演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業、組織、団体などはありません。

日本医師会とは？

公益社団法人日本医師会は、1916年に北里柴三郎博士（初代会長）らによって設立された、医師の医療活動を支援する、民間の学術団体です。

世界医師会に認められた、日本で唯一の医師個人資格で加入する団体です。

各種の調査・研究や国際交流などを通じて、これからの医療のあり方を考え、より働きやすい医療環境づくりと国民医療の推進に努めています。

○公益社団法人 日本医師会の目的

[定款第3条]

本会は、都道府県医師会及び郡市区等医師会との連携のもと、医道の高揚、医学及び医術の発達並びに公衆衛生の向上を図り、もって社会福祉を増進することを目的とする。

医師会の災害医療対策

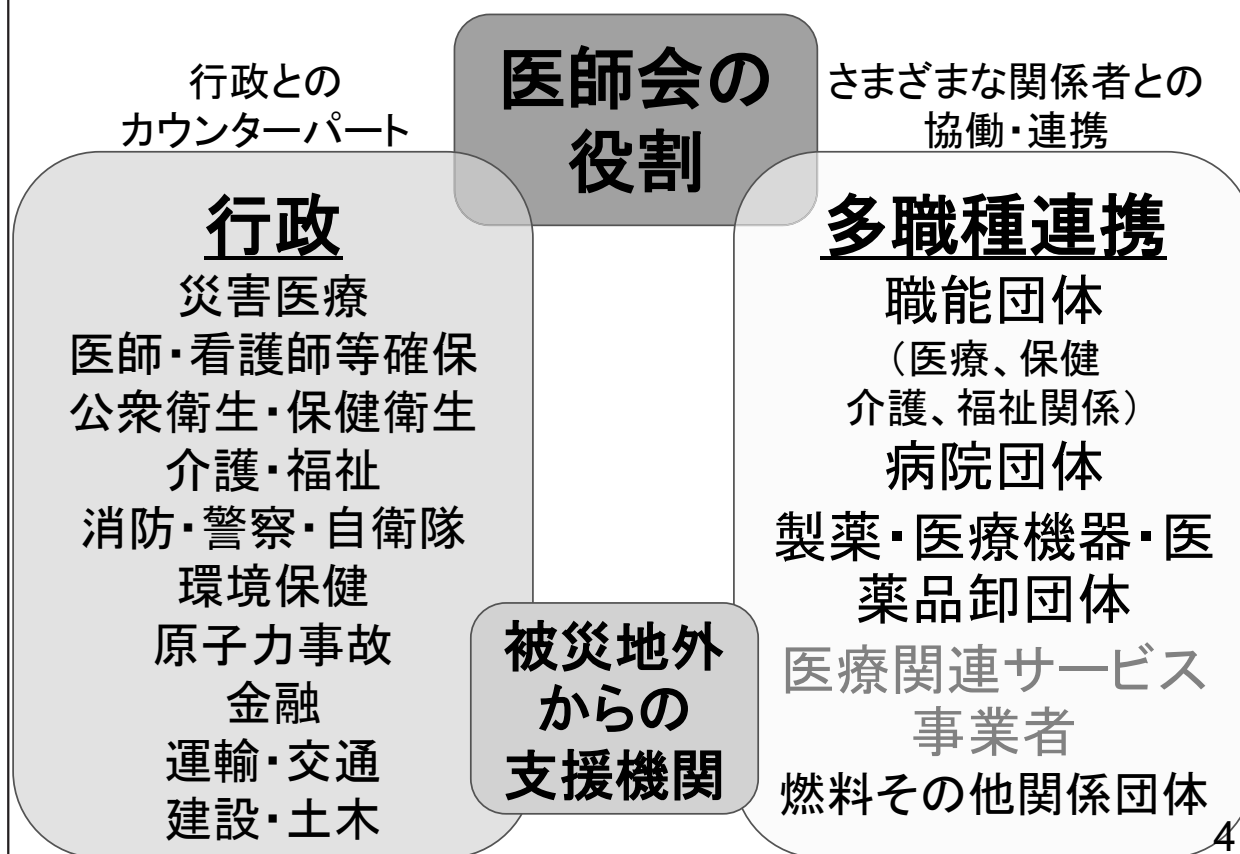
- 医師会の組織力、ネットワークを最大限に活用して、医療支援を行う。
- 災害発生前の段階（災害への備え）、災害発生直後から、地域医療の復興まで、支援を行う。
- 災害発生時は、被災地の都道府県医師会が管内の被害状況を把握するとともに、行政の対策本部に参画する。

日本医師会の災害支援の最終目標

→ 被災地に、地域医療を取り戻す

3

災害時における連携



4

災害対策基本法に基づく「指定公共機関」

- 2014年8月1日、内閣府、日本医師会を、災害対策基本法上の「指定公共機関」に指定。
 - 特に、東日本大震災でのJMAT活動が評価。
 - 都道府県医師会は、すでに「指定地方公共機関」として、防災行政に参画。
 - 指定公共機関の義務
 - 中央防災会議の協力要請・指示への対応
 - 防災業務計画の作成
 - 災害への体制づくり
 - 防災訓練の実施
 - 災害発生時の応急対策、復旧活動

5

日本医師会の災害医療支援業務 (防災業務計画より)

- (1) 日本医師会災害医療チーム (JMAT : Japan Medical Association Team) の派遣
- (2) 死体の検案に関する医師の派遣又はその協力
- (3) 救援物資の搬送及び配分
- (4) 被災地の保健衛生の確保
- (5) 義援金の受付及び配賦
- (6) 広報活動、その他被災地の地域医療の復興を含む災害医療支援に必要な業務

6

JMAT

(日本医師会災害医療チーム)

Japan Medical Association Team

経緯

- 平成22年3月、東日本大震災の1年前に、日本医師会の「救急災害医療対策委員会」よりJMATの創設を提言。
- 平成23年3月15日、JMATの結成を決定。
各都道府県医師会にJMATの派遣を要請。

7

JMATの役割

主に、災害急性期以降における避難所・救護所等での医療や健康管理（災害前からの医療の継続）。さらに、被災地の医療機関への円滑な引き継ぎに至るまで、多様かつ広範囲に及ぶ。

- (1) 医療支援と健康管理
- (2) 公衆衛生支援
- (3) 被災地医師会支援
- (4) 被災地行政支援
- (5) 検視・検案支援（可能な場合）
- (6) 現地の情報の収集・把握、及び派遣元都道府県医師会等への連絡
- (7) その他、被災地のニーズに合わせた支援

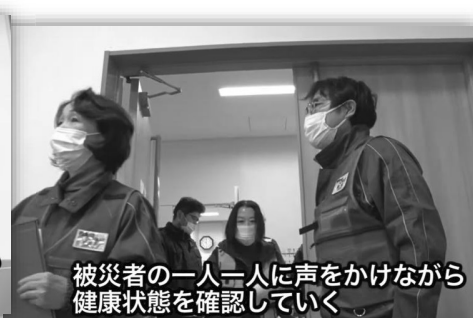
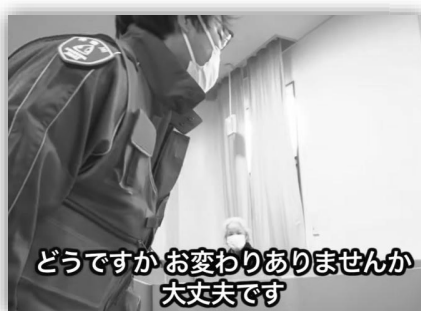
8

近年の自然災害に対するJMAT派遣実績

年度	災害	活動期間	派遣チーム数、派遣人数
2011	・東日本大震災	・2011年7月15日まで(JMAT I) ・2011年7月15日～2016年3月21日(JMAT II)	・1,398チーム、延べ6,054名(JMAT I) ・1,365チーム、延べ6,574名(JMAT II)
2016	・平成28年熊本地震	・4月16日～7月26日	・568チーム、延べ2,556名
2017	・平成29年7月九州北部豪雨(福岡県)	・7月10日～7月15日	・10チーム、延べ44名
2018	・平成30年7月豪雨(岡山県、広島県、愛媛県) ・北海道胆振東部地震	・7月8日～8月23日 ・9月9日～9月24日 (9月7日先遣JMAT派遣)	・251チーム、延べ1,029名 ・43チーム、延べ246名
2019	・令和元年九州北部大雨災害 ・令和元年台風第15号(千葉県) ・令和元年台風第19号(宮城県、福島県、茨城県、栃木県、千葉県)	・9月3日～9月8日 ・9月13日～9月16日 ・10月12日～11月22日	・12チーム、延べ46名 ・10チーム、延べ19名 ・67チーム、延べ258名
2020	・令和2年7月豪雨(熊本県) ・令和3年足利市山林火災	・7月7日～8月27日 ・2月25日～3月2日	・106チーム、延べ482名 ・3チーム、延べ8名
2021	・令和3年7月1日からの大雨による災害(静岡県)	・7月12日～8月1日	・13チーム、延べ58名
2022	・令和4年8月3日からの大雨等による災害(福井県)	・8月14日～8月17日	・4チーム、延べ16名
2023	・令和5年7月7日からの大雨による災害(秋田県) ・令和6年能登半島地震	・7月16日～7月17日 ・1月1日～5月31日	・2チーム、延べ7名 ・1,097チーム、延べ12,374人
2024	・令和7年岩手県大船渡市における大規模火災	・3月2日～3月2日	・1チーム、延べ4名
2025	・令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災	・11月22日～12月1日	・10チーム、延べ42名

9

JMATは、普段は地域のかかりつけ医機能を担っている医師が主に参加する災害医療チーム

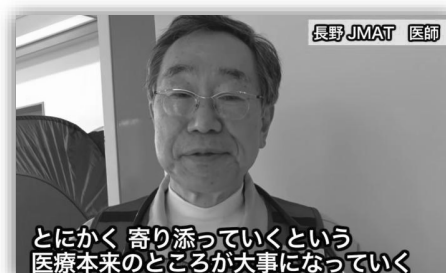


この動画は、日本医師会WEBサイトより閲覧できます

<https://www.med.or.jp/nichiionline/article/011643.html>

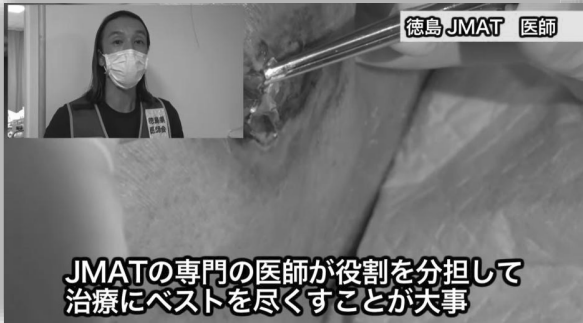
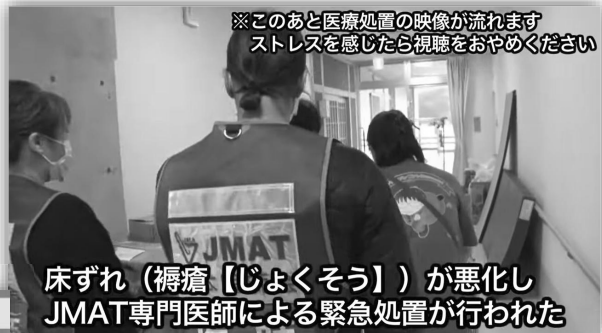
JMATには、普段はかかりつけ医として、あるいは、かかりつけ医と連携している医師が参加。

また、看護職はじめ様々な医療職種、事務職の隊員も、同様に普段は地域に寄り添って従事している。



10

JMATは、普段は地域のかかりつけ医機能を担っている医師が主に参加する災害医療チーム



日本のかかりつけ医は、それぞれが専門性を持った上で、平時は幅広く、さまざまな患者さんの診療に対応している。

被災地の医療を担ってきた地元医療機関を支えることも、大切なJMAT活動

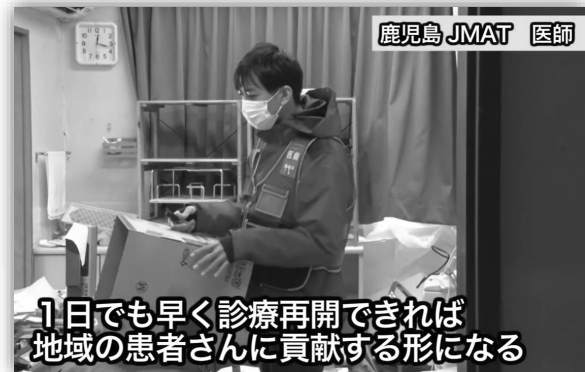


輪島市嘉門内科 嘉門信雄医師

被災地の医療を担ってきた地元医療機関を支えることも、大切なJMAT活動



JMAT の協力もいただいているので
そんなに悲観した状態でもない



1日でも早く診療再開できれば
地域の患者さんに貢献する形になる



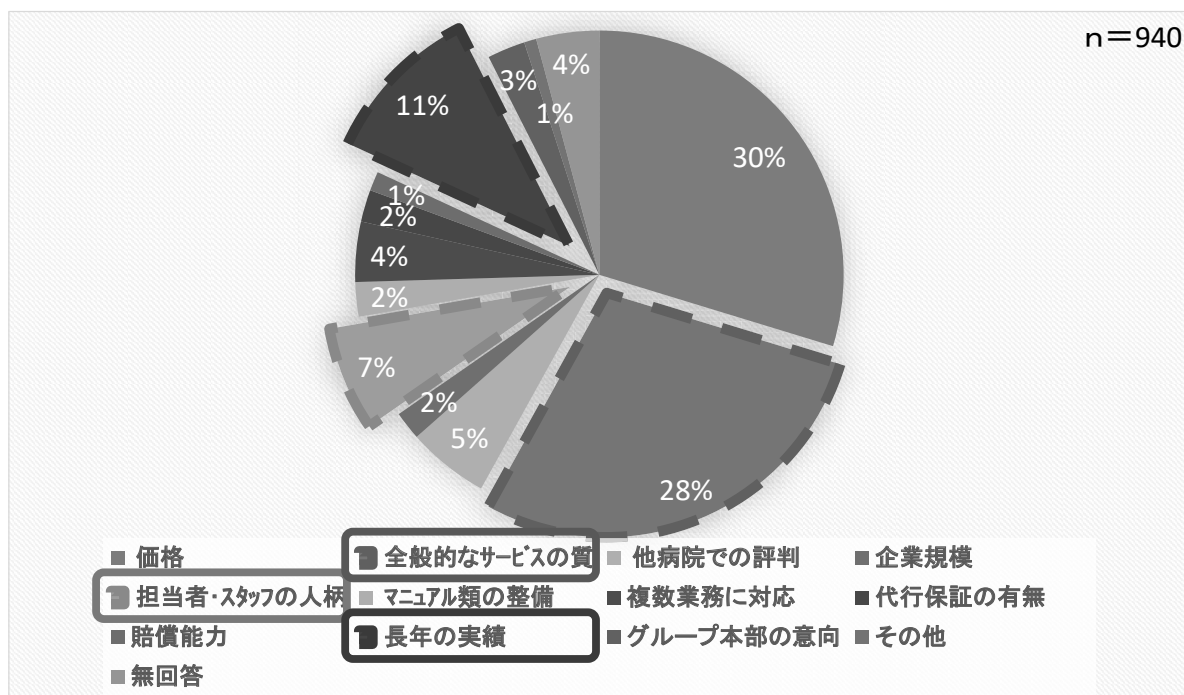
能登半島地震におけるJMAT活動では、被災地の診療所に対する診療再開支援も重要なミッションとなった。JMATから、看護職員の派遣も実施。

13

災害時も医療の継続を支援していくために



医療機関が、医療関連サービス業者との契約の決定要因として、重視している項目



医療関連サービス振興会実態調査より 1位から3位までの点数配分を基に計算

15

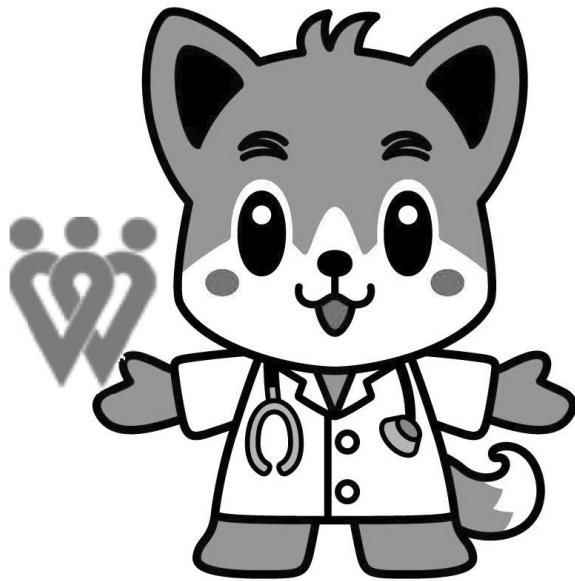
医療関連サービスと今後

- 安全で良質な医療のためには、医療資格を持った医療従事者だけで成り立つものではない。医療関連サービスとその従事者の方は欠かせないパートナーである。
- 医療機関が安心して業務を委託できるようにするには、サービスマーク制度による認定事業者を事業所単位で増やしていくことが重要。
- 医療関連サービスマーク制度は、安心と安全を目指す医療において、制度的なインフラストラクチャーと言える。
- 医療関連サービス振興会及び各事業者には、今後も素晴らしい実績の積み重ねと、現場スタッフと医療関係者の良好な関係構築のご努力をお願いします。

16

ご清聴 ありがとうございました。

ハートが二つ重なった医療関連サービスマークのデザインは、医療機関と医療関連サービス事業者がお互いの心を通い合わせていることを意味しています。その趣旨は、医療関連サービスには、高い技術の裏付けとともにそれを提供する人々の真心や愛情が必要であるということです。



日本医師会キャラクター
日医君